

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス新変異株の感染状況にも左右されるが、北海道の冬季観光型イベントが規模を縮小しつつも開催予定であるため、国内航空機利用者の回復傾向は今後も継続又は拡大する。ただ、残念ながらインバウンドの観光需要回復にはまだ時間が掛かる状況であるため、観光需要は国内客に頼ることになる。
	○	商店街（代表者）	・感染拡大が収まっていることから、少しずつ景気は上向きになる。ただ、既に廃業している店も多く、元の状態まで回復するには、消費税の減税など、政府の相当なてこ入れが必要となる。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、月を追うごとに景気が回復していることから、今後も回復傾向で推移する。
	○	百貨店（売場主任）	・北海道は観光で潤っている部分が多いため、日本人観光客が増え、外国人観光客の入込が再開されるようになれば、人流が活発になり、景気も良くなると期待している。
	○	百貨店（販売促進担当）	・今後の新型コロナウイルス新規感染者数がどう推移するかは未知数だが、少しずつ日常が戻りつつあることから、今後の景気は回復することになる。
	○	百貨店（営業販促担当）	・コロナ禍で動きが悪かったスーツ、フォーマル関係などの衣料品に動きが出始めている。そのため、今後も新型コロナウイルスの感染状況が同じような状態で推移することになれば、ある程度の景気回復が期待できる。春になり、旅行関係が本格的に動き出すことも期待している。
	○	百貨店（マネージャー）	・客の動向をみると、外出や旅行に出掛ける人が増えているため、外出着やバッグなどを購入する機会が増えており、売上につながっている。緊急事態宣言解除後は極端な落ち込みもなく推移しているため、今後の景気は緩やかに回復することになる。ただし、新型コロナウイルス新規感染者数が増えた場合には厳しさが戻ってくる可能性が高い。
	○	スーパー（店長）	・年末年始を過ぎても新型コロナウイルスの感染状況が現在のような小康状態で推移すれば、春先に掛けて様々な規制が緩和されていくと期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・様々な商材が値上げ基調にあるため、家計の節約傾向が強まっているが、徐々に慣れてくるため、今後の消費は回復することになる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・新型車の売上が収益に貢献すること、年度内の増産効果が受注残の売上につながることが見込まれるため、今後の景気はやや良くなる。ただ、新型コロナウイルス新変異株の感染拡大の影響が心配される。
	○	乗用車販売店（従業員）	・海外も含めた新型コロナウイルス新変異株の感染状況にも影響されるが、緊急事態宣言が発出されなければ景気はやや良くなる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・コロナ禍の景気対策として実績のある地域割クーポン券の発行が予定されているため、今後、外出機会が増えることになる。当店においてもクーポン券利用を目的とした客の来店が増加すると見込まれる。
	○	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス新変異株の影響が懸念されるものの、観光地や宿泊地などの感染防止対策や国民の感染対策意識が高いこともあり、景気は徐々に回復するとみられる。ただ、外国人の入国が再開されるなどして人流が活発になると、感染が一気に拡大し、逆に人流が止まってしまう恐れもある。
	○	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数の動きが不安定な状況ではあるものの、客の目的地となるような施設や店などでは感染対策を十分に行っていることから、利用客も徐々に戻ってきている。そのため、今後の景気はやや良くなる。
○	タクシー運転手	・新型コロナウイルス新変異株の感染状況次第だが、このまま景気の良い状態が続くことを期待している。	

○	観光名所（従業員）	・外国人観光客の動向を見通すことはできないが、国内観光客、特に団体旅行の復調が顕著である。今後もGo To Travelキャンペーンなどの各種施策の後押しを受けて、徐々に景気は良くなっていくと期待している。
○	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が現在のような水準で推移することになれば、今後、外出の機会や行事の開催も増えることになる。それにとまって当店の来客数及び売上も徐々に増加することになる。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・冬型の気圧配置が緩む頃から、正常な運航状況に戻ると見込まれることから、今後の景気はやや良くなる。
□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数がちらほらとみられること、政府の景気対策にぱっとしたものがいないことなどから、今後も世の中の動きは変わらない。
□	商店街（代表者）	・当地においては2か月以上新規感染者が出ていないものの、ガソリンなどの価格が高止まりしている現状を考慮すると、極力出費を控えようとする傾向が強くみられることから、今後も出控えが続く。そのため、買物客の増加は見込めず、景気は変わらないまま推移する。
□	商店街（代表者）	・観光業界は行政の早い支援策のお陰で首の皮が一枚つながっている状態を維持できている。ただ、北海道は観光の閑散期であるため、今後の大きな回復は見込めない。来春の本格的な観光シーズンに大型の支援策などが展開されないと、北海道の観光業界は耐えられず崩壊することになる。これまで観光業界への直接的な支援が一切なかったことが、ボディーブローのように効き始めており、本格的な景気回復支援策を切望している。
□	商店街（代表者）	・果物が全国的に不作であるため、国内のりんご出荷が早くなることを見込まれるものの、5月以後は国産果物が枯渇することが懸念される。
□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス新変異株の影響もあり、県をまたいでの移動や大人数での会食にブレーキが掛かった状態が続くことになる。今後については前年並みでの推移が見込まれるが、そこから大きく伸びることまでは期待できない。
□	スーパー（企画担当）	・現状の人流の多さは今後も変化しないとみられる。また、マーケットの競争環境も現状のまま推移するとみられることから、今後も景気は変わらない。
□	コンビニ（エリア担当）	・今後も現状のスタグフレーションが継続又は加速するとみられることから、今後の景気は良くて現状維持となる。新型コロナウイルス新変異株が感染拡大することになれば、景気が悪化する懸念もある。
□	コンビニ（エリア担当）	・当業界では、前年1月頃から新型コロナウイルスの影響がどちらかといえばプラスに影響しており、来客数が増加傾向で推移していた。今は逆に来客数が落ち着いているため、もしかすると前年よりも景気が悪くなる可能性がある。
□	衣料品専門店（店長）	・外食産業、観光業が盛り返すことになれば、人が外出する機会が増え、紳士服業界も上向きに転じると期待できるが、まだまだ先のこととみられる。
□	家電量販店（経営者）	・今後も引き続き景気の良い状態が続くとみられる。
□	家電量販店（店員）	・今後、新規感染者数が増えてくることで客足が鈍ることが懸念される。
□	乗用車販売店（従業員）	・春先に新型車が発売されるため、それが追い風となり、景気も少しは良くなる。ただ、新型車が大人気車種ではないため、飛びぬけて良くなることまでは見込めない。全体的には今と同じように、景気がそれほど良くも悪くもなく、どちらかといえば良い方向で推移するとみられる。
□	自動車備品販売店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況次第で変化するため、何とも言えないというのが正直なところである。感染状況が落ち着いている状態が続くようであれば、旅行業などの景気も良くなり、全体的な景気は上向きになる。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	・感染状況が落ち着いて推移すれば、ある程度の回復は見込める。ただ、感染状況に影響されやすい業種のため、数か月ではそこまで景気は変化しない。

□	高級レストラン（スタッフ）	・今後の景気は少しずつ回復するとみられる。ただ、新型コロナウイルス新変異株の感染拡大が進めば、すぐに自粛が始まることになる。年末の利用者も日頃から活動的な客だけであり、一般客はまだ不安を持っている客が多かったため、高級店で食事を楽しむという状況にはならない。
□	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスを契機として、働き方にも変化が出てきているなど、感染対策に気を遣いながら行動をしている人が多いことから、今後の景気が完全に元に戻ることはない。
□	タクシー運転手	・新型コロナウイルス新変異株のこともあり、今後の人の動きがどうなっていくのかまだ予断を許さない状況にある。また、タクシーの利用は降雪などの天候によって左右されるが、感染状況が現在のような状況で推移すれば、新型コロナウイルス発生前には及ばないにしても、前年よりは相当景気が良くなる。
□	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況次第の面があるが、現状からは今後も景気は変わらない。特にこれから年明けに掛けては寒くなる時期であるため、感染状況が悪くなるのではないかと心配している。ただ、感染状況が落ち着いて推移することになれば、前年よりも景気は上向くことになる。
□	観光名所（職員）	・全国的に新規感染者数が落ち着いているが、それに比例して来客数が伸びているわけではなく、厳しい状況が続いている。景気を向上させるためには、観光の起爆剤となり得るGo To Travelキャンペーンの実施などが必要であり、新型コロナウイルス新変異株なども含めた新型コロナウイルスの収束に期待している。
□	美容室（経営者）	・12月の景気は良かったが、この先については不透明である。客の会話や販売動向からもこの先の景気が良くなるような気配が特に感じられない。
□	美容室（経営者）	・現在も様子見している客が多いことから、今後も景気は変わらない。
□	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株の出現など、感染状況がいまだに予断を許さないところにある。そのようななか、分譲マンション市場においては資源価格高騰の影響などによる価格高止まりもあり、供給体制が改善されていない。需要層の所得が伸び悩んでいることもあり、分譲マンション市場が順調に拡大していくのは難しい状況にある。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・魚の不漁に加えて、石油価格の高騰、大雪による影響などが出てくるのが懸念されるため、今後の景気は落ち込むことになる。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・人の流れが増えている状況のなかで、今まで旅行などを行っていなかった人も、この年末年始は帰省や旅行に出掛けており、それにとまって景気も上向いている。ただ、新型コロナウイルス新変異株がどのような状況になるか分からないため、2～3か月後になり、新規感染者数が増えた場合には動きが止まるのではないかと心配している。このまま感染状況が小康状態で推移すれば良いが、再び緊急事態宣言並みの新規感染者数になると、消費マインド、観光マインドが一気に下がることになる。
▲	スーパー（店長）	・今後、新型コロナウイルスの影響が強まることが懸念される。
▲	スーパー（企画担当）	・スーパーへの客足が百貨店や外食に奪われていることに加えて、電気料金、ガソリンや灯油代などの燃料費の値上がりによって家計での負担感が大きくなれば、今後の消費活動にマイナスの影響を与えることになる。
▲	スーパー（役員）	・原料の値上がりに加えて、輸入品の入荷遅れや人手不足により、今後、食品の値上がりがますます進み、客の節約志向が一層強まるとみられる。
▲	スーパー（従業員）	・新型コロナウイルス対策としての景気浮揚策の効果も期待できるが、新型コロナウイルス新変異株や感染の第6波などへの不安要素の方が強く感じられるため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・前年はプレミアム付商品券による効果がみられたが、今年は金額や券数を減らす動きがみられることから、冬期間の景気が上向くことは望めない。新型コロナウイルスの感染状況によって変化しそうな部分があることもマイナスである。

	▲	その他専門店 [医薬品] (経営者)	・現状から、今後の景気はやや悪くなる。地道な店頭啓もう活動が個店の売上を伸ばす唯一の方法であり、初心に帰って経営していくのみである。
	▲	観光型ホテル (スタッフ)	・自治体が観光支援策として行っている事業が2月で終了すること、Go To Travelキャンペーンの再開が不明なことから予約が停滞気味であるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	旅行代理店 (従業員)	・感染状況が少し落ち着きをみせ始めたと思いきや、新型コロナウイルス新変異株の感染拡大や北海道内での感染拡大がじわじわと起こり始めているため、先が見えない状況にある。
	▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルス新変異株の市中感染など、正月の帰省により道内でも新規感染者数が増えてくる可能性があり、今後の第6波が懸念される。感染対策による外出規制などが発出されることも見込まれるため、3回目のワクチン接種、経口薬の供給などが早めに行われることを期待している。
	▲	通信会社 (企画担当)	・競合他社との価格競争が激しく、消耗戦になってきているが、打開するような決定的なサービス、通信端末がないため、もうしばらく苦しい状況が続く。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	・せっかく新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きがみられていたが、新型コロナウイルス新変異株による感染が生じ始めていることから、2～3か月後には第6波が来ると見込まれる。そのため、今後の景気は厳しくなる。
	×	スナック (経営者)	・現状から、今後の景気は良くはならない。
	×	観光型ホテル (経営者)	・新型コロナウイルス新変異株の感染に関する過剰報道で既にキャンセルが増加しており、営業状況が悪化するとみられる。期待しているGo To Travelキャンペーンの実施がいまだに不確定なこともマイナスである。
	×	タクシー運転手	・いよいよ第6波の到来が現実味を帯びていることから、これまでの景気回復の兆しが見られていた状況から一転して下降曲線に入ることが見込まれる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	建設業 (経営者)	・公共工事の補正予算分の発注、契約が始まることから、今後の景気はやや良くなる。実際の工事着工は4月以降になるが、準備作業などの工事に向けての動きが出ることになる。一方、民間工事については、まだ引き合い程度で新規契約は少ないとみられる。
	○	建設業 (役員)	・閣議決定された2022年度予算案で北海道開発予算が2年ぶりに前年を上回ったことから、新年度へ向けた公共工事受注に期待が持てる。ただし、建設資材の高騰と品不足が懸念材料である。
	○	金融業 (従業員)	・大型経済対策の後押しを受けて、個人消費の持ち直しが一層鮮明になってくる。観光についても需要喚起策の実施が予定されていることから、3か月先の道内景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業 [ソフトウェア開発] (経営者)	・来年度の案件が出始めたことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	・現在の動向から底を脱した感が強く、今後の景気はやや良くなる。
	□	食料品製造業 (従業員)	・この先、これ以上販売量が増えるような要素が見当たらないため、今後も景気は変わらない。
	□	通信業 (営業担当)	・今後の企業の動きとして、新型コロナウイルス新変異株の様子をうかがいつつ、本格的な新型コロナウイルス収束を見据えた動きが出てくると見込まれるため、景況感としては現状同様のやや良い状態が継続する。
	□	司法書士	・新型コロナウイルスによる感染状況がようやく下火になってきたが、新型コロナウイルス新変異株が世界中に広がり、日本国内にも市中感染とみられる感染の拡大が懸念されるなど、新たな危機が感じられる状況である。年末年始で人流が活発になっていたこともあり、新型コロナウイルス新変異株による感染拡大は時間の問題と考えられ、景気回復は感染が収束した後になる。

	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・現在の状況がこのまま続くとみられる。また、建築関連における鉄骨の材料不足と値上がりの影響も考えると、鉄骨加工量が増えることへの不安もある。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・半導体不足はいずれ回復するとみられるが、ウッドショックやメタルショックによる材料費の高騰は今後も続くと見込まれる。また、カーボンニュートラルに世界がかじを切ったことは良いことだが、新型コロナウイルスの収束がいまだにみられないなか、当社にとっては悪影響しか生じない。
	▲	建設業（従業員）	・案件の選択が進み、大規模案件のみが注目され、それ以外の案件は延期となる傾向がみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	輸送業（支店長）	・例年、冬期間は貨物量が減る傾向にあることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・業種にもよるが、半導体不足やウッドショックなど、新型コロナウイルスの影響による原材料費の高騰が価格や納期に大きな影響を与えている。新型コロナウイルスの感染が再び徐々に増えていることから、今後の景気は下向きで推移することになる。
	×	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・新型コロナウイルスの影響のほか、資材不足、半導体不足に加えて、燃料価格の高騰やアドブルーの不足など、マイナス要因が増えていることから、今後の景気は悪くなる。
雇用 関連	◎	—	—
(北海道)	○	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの収束を見据えて、企業が営業活動のスピードを速めているなど、前年の先行き不安から脱却しようという企業の意志が感じられる。観光業においては、緊急事態宣言の解除を受け、年末年始の宿泊稼働率が8割を超えているホテルもみられる。飲食店など、今後の不安要素が残る業種もあるものの、一般の企業においては営業人材の確保に動いているなど、業績回復に向けた動きがみられる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・農畜産物の安定的な生産動向を背景に景気が良くなる気配が感じられる。ただ、新型コロナウイルス新変異株の感染状況が懸念材料である。
	○	職業安定所（職員）	・Go To Travelキャンペーンの再開も見込まれることから、今後の景気はある程度上向くと期待している。求人の動きも前年より良い状態で推移しており、企業の採用活動も特定の業界を除けば新型コロナウイルス発生前に近いような状況にある。
	○	職業安定所（職員）	・当地における新規求人数が前年から6.3%増加しているほか、月間有効求人数も8か月連続で前年を上回っており、全体的に回復の兆しがみられる。ただ、サービス業、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉、運輸業・郵便業、情報通信などで求人数が増加している一方で、卸売業・小売業、製造業などで求人数が減少しているなど、産業や業種によってその度合いは異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況や経済活動、消費行動の状況によっては再び先を見通せない状態になることも懸念される。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・今まで新卒採用に慎重だった中小企業も2023年卒業予定者の採用に向けて準備を始めるなど、経済活動が少なからず活発になってきていることから、今後の景気はやや良くなる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・良くも悪くも新型コロナウイルス新変異株の感染状況に影響されることになる。ウィズコロナの新しい生活様式に対応できない企業や店舗は苦戦が続きそうだ。
	□	職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の相談件数や申請件数が減少傾向にあるものの、新型コロナウイルス新変異株の感染状況、赤潮被害の影響などの懸念材料もあることから、今後の景気は変わらない。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・正月の帰省や年末年始の観光など、人の移動が増えていることから、新型コロナウイルス新変異株の影響を受けて再び経済活動がストップする可能性が高い。
	×	—	—